

表現運動の自主研修プログラムの開発と検証

～創造的な教師力の向上をめざして～

*高橋るみ子・**今村直也・***児玉孝文・****野邊麻衣子

Development and Verification of a Self-training Program
Using Expressive Movement

— Improving the Creative Power of Teachers —

Rumiko TAKAHASHI, Naoya IMAMURA, Takafumi KODAMA and Maiko NOBE

1 はじめに

“創る”という自発性に立つ学習であるダンスでは、「その過程の特色をとらえつつ、表現者の可能性の限界を、更に新しくきり開くような有効な指導」(松本, 1962)が求められる。しかし、あらゆる価値観が多様化、流動化する現代社会においては、自主創造性の教育と同様の、“時代や社会の変化(の特色)をとらえて、子どもや学校や地域の可能性の限界を、更に新たに切り拓くことができるような力”が、すべての教員に求められる。そこで、本研究では、そうした創造的な教師力を向上させるような自主的な研修のあり方を示すことを目的に、「戦後日本の舞踊教育の母」といわれる松本千代栄氏の足跡を収めた「松本千代栄撰集」^(注1)に自主研修の実際を探り、併せて、現職教員のための自主研修プログラム(表現運動)を開発・検証する。

なお、戦後初の「学校体育指導要領」(1947)の作成委員として、はじめて体育に創作芸術体験を取り入れた松本は、「与えられた研修の機会だけでなく、教員は生涯、自発的に研修を続けるべきである」との信条を持^(注2)、今日までに3つの自主研修会^(注3)を興している。その一つが、大学人に限らずに広く一般の教員に有志をつのり、1962年に結成した指導法研究会「清里研究会」である。松本は、9年間の清里研究会の折々に、活動を進めるための資料や提言を提出しており、それらの中で、この指導法研究会の成果に期待する思いと併せて、自主研修会のもち方や、そうした研修でみなが指導者としての力について言及している。次章に、それらをまとめた。

2 ダンスにみる自主研修のあり方

「指導要領実施にともない、先生には、さまざまな問題に直面され、その解決に努めておら

* 宮崎大学教育文化学部
*** 宮崎大学大学院教育学研究科院生

** 日南市立東郷小学校教諭
**** 串間市立大東小学校教諭

れることと思います。今回、私たちお互いが、実践記録をもちよったり、理論を考えあつたり、実技練習をとおして問題解決をしていく集まりをもち、子供や生徒たちをより豊かに育てるために、ともどもにかたり、研究していきたいと考えました。そこで、水谷光、大島敏（福井大）、増田恵子（葦山中）、安藤幸（富山大）、大島千代（都立大）、相場了（教大附小）、諸先生とはなしあつて下記の計画をたててみました。第1回の集まりが、お互いに有意義であれば、今後継続的に御一緒に勉強していきたいと存じます。いかがでしょうか、おさそいもうしあげます。」（松本、1962）

これは、第1回清里研究会の実施要項に添えられた文末の“おさそいもうしあげます”の一文が、何とも上品で印象的なおさそい文である。そして、文中の、「お互いに」「ともどもに」「ご一緒に」や、「実践記録をもちよったり」「理論を考えあつたり」などの文言からは、自主的な研修会が、個々の先生がさまざまに直面する問題を解決するために、集まって考え、かたり、勉強する“研究会”であることや、同じく「第1回の集まりが、お互いに有意義であれば、今後継続的に」や「いかがでしょう」の文言からは、自主的な研修会の継続が、参加者相互の判断・決定に任されるものであったことがわかる。

また、折々に提出された資料や提言の文言の、「具体的なすすめ方としては、・・・(略)・・・」など、その他にも考えられると思いますので、申し込みカードに、具体的な研究のすすめ方を是非およせくださるようおまちしております。」（第5回清里研究会へのおさそい、1966）や、「第6回の清里研究会では・・・すすめてきました。東京部会では、・・・考えました。それで、今回は・・・研究をすすめてみたら如何かと思います。」（第7回清里研究会へのおさそい、1968）からは、松本が、集った有志に対して、常に提案や意見の提出を求め、そうした提案や意見を反映させたすすめ方をとっていたことや、年に1回の合宿とは別に部会を設けて自主的な研修を行っていたことをうかがい知ることができる。

同様に、提出された資料や提言の、「私たちは、あらゆる場や条件に、指導性を発揮できるように、指導者としての教養をみがかなければならないことを痛感する」（舞踊創作に関する実技理論、1962）や、「教員は、生徒の中に生まれ得る予測できる事態を整理し、予測できなかった事態にも対処できる用意をしておくことが重要であると思われる」（第5回）からは、松本が、研修会は、あらゆる場や条件に対処できるように“整理”や“用意”をする（指導者としての教養をみがく）場であり、教師力は、研修会でみがいた指導者としての教養をあらゆる場や条件で発揮できる力であると考えていたことがわかる。また、「創作活動では“自ら創る”という独創性を尊ぶ学習の性質上、指導は、あらかじめ予測されることがらと同時に、機に応じてなされるべきことも多く、指導の働きは一層複雑かつ重要になる。」（舞踊創作に関する実技理論）からは、そうであるからこそ、創作ダンスに的をしぼって指導法を勉強する研究会を興した松本の意図を読み取ることができる。

同様に、提出された資料や提言の、「一応、私の考えを述べてみます。みなさんと御検討の上、一貫性のある考えのもとに、各々発達段階と目標に応じた、具体的試案を作成して下さるようになぞみます。」（第2回研究会への提案、1963）や「提案は、1つの抽象された方向として行われても、それを常に、自分のもっている児童生徒の特性とかがみあわせて具体化し、いきいきと児童を活動させるのに役立つものにしてほしいと思います。」（第5回）からは、松本が、研修会に集う有志に対し如何に自主的・積極的な研修を期待していたかを知ることがで

きる。さらに、松本が、一貫性のある考えや1つの抽象された方向について検討する会として、自身の研修会を位置づけていたことがわかる。また、「(見つけた有効な方向)は、指導の“型”ではなく、指導の“精神”であるはず。型としてとらえた時、いきなものとして、対象に応じてつかいこなすことはできません。精神—その活動をさせる意義—をとらえていた時、対象の状態に応じて、種々に変化させて活用できるはずです。」(第5回)からは、松本が、具体的な試案を作成したり、具体化して活用する以前の、活動させる意義をとらえるための力をより重視していたことがわかる。

そこで、本研究では、これらの分析結果を参考に、集った有志が、各々発達段階と目標に応じ、あるいは自分のもっている児童生徒の特性とかみあわせて具体化して活用できるような“一貫性のある考え”を提案する研修プログラム(小学校の表現運動)の開発を試みた。

3 教員の研修の必要性

平成20年3月に新学習指導要領が公示され、新たな教育改革が進められようとしている(注4)。そして、この新学習指導要領では、「生きる力」を「将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要な力」と位置付けたが、それではこの「生きる力」を育成する教員に対しては、これからどのような力が求められるのであろうか。

これについて、教育学の市川博は次のように述べている(注5)。

「各地域・学校・学級ごとに創造的に編成されるべきカリキュラムが、周りの学校や学年ごとに統一されて展開されている事例が多いことに典型的に表れているように、教員の世界は、主体性・創造性に欠け、横並び的・ことなかれの傾向が強い。こうした性向ではたして主体的にたくましく生きる力を育てることができるのであろうか。それは、外からの研修や短期間の社会体験で培われるものではない。

今後、校内外の専門・技量・経験豊かな人たちを「同僚」として連携して、教育活動を展開していく機会がさらに多くなる。その多様な人たちの主体的でたくましい生き方を積極的に学ぶとともに、教員の方から教育の神髄を訴え、協働者としての関係を深めるように努力していくなかで、自己の教育観を確かめ・深めつつ、教員としての力量を日常的に高めていくことが重要である。」(市川、2002)

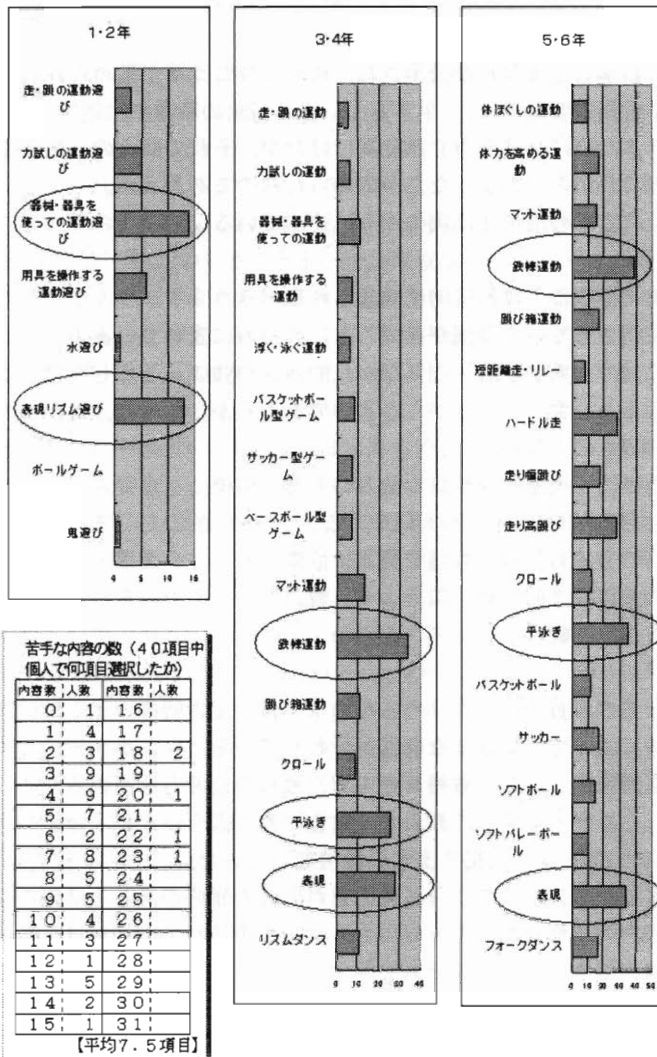
現在、教員としての資質や能力を高めるために、校内での研修、または研修センター等、校外の各機関、団体によってさまざまな研修が行われている。殊に小学校の校内研修は、年間を通して取り組む主題研究として、教科を選んで、教科の指導力を高めるために学校全体で取りくむことが多く、したがって個々の教員が「自己の教育観を確かめ・深めつつ、教員としての力量を日常的に高めていく」(前掲)ようには機能していない。一方、校外研修に参加する機会はそれほど多くはなく、自分のニーズに応じた内容の研修があるとは限らない。また運良くニーズに応じた内容の研修があったとしても、学級を担任している教員は時間的にも参加しにくい。そこで、自主的な研修プログラムの開発を前に、そうした状況下にある教員が、自身の指導力の研鑽や成長についてどのように考え、どのように対応しているかを探った。具体的には、共同研究者である今村の勤務校と地域を同じくする5つの小学校の、それぞれ学級を担任

する教員を対象に、毎年全国で実技の伝達講習が開かれるなど研修が重視されてきた体育科の指導力についてアンケート調査を行なった（回答数は74）。以下にその結果を報告する。

現行の学習指導要領では、1・2年生は8、3・4年生は15、そして5・6年生は17の学習内容の取り扱いが示されている。これらについて発達段階別に苦手と感じる内容を問うたアンケートでは、合計すると平均して7.5の内容を苦手と感じていた。また苦手と感じる内容は、1・2年生は「器械・器具を使つての運動遊び」「表現リズム遊び」が突出して多く、3・4年生と5・6年生では、それら（「鉄棒運動」と「表現」）と「平泳ぎ」であった（表1参照）。

さらに、苦手と感じている内容の対応についての聞き取り調査では、若手や中堅、ベテランに関係なく、苦手を払拭する必要性を感じながらも、研修に参加する機会や時間がない、ニ一

表1【体育科（実技系）で指導を苦手とする内容】 ○ は特に多いもの



ズに合った研修がない等を理由に、なら積極的な手だてを講じていない実態が明らかになった。また、教員研修についても、研修の機会は与えられるものであると思こんでいる教員が多く、自分の苦手は自分で払拭するといった意識や自主研修に関心をもつ教員は少数であった。

そこで、本研究では、同類の苦手意識を感じている教員が集まって、考え、かたり、勉強するような“気軽な”場（研修会）が日常にあれば、またそれが有意義一個々の苦手意識を取り除く一であれば、主体的・積極的に参加しようとする教員が増えるはずであると考え、「表現」の指導の苦手意識を払拭したいと望む教員が、校内で、「同僚」（校内外の専門・技量・経験豊かな人たち）と連携して、主体的に企画・実施する少人数の自主研修会プログラムを開発・実施した。さらに、作成した自主研修プログラムが有効であれば、「表現」に限らずさまざまな内容や領域、教科に発展させて、与えられた研修の機会だけでなく自主的な研修会を興すような、学校現場の可能性の限界を、さらに新たに切り拓く教師力をもった教員が現れるはずであると考え、作成したモデルの有効性について検証した。次章に、共同研究者で現職教員の今村がモデルとなって開発した自主研修プログラムの具体的な内容と検証の結果を報告する。

4 教員が企画・実施する自主研修の実際

(1) 実施のための手順

自主研修会といえども、そこには講師料や会場費等の運営経費が派生する。そうした経費を分担し、個々の教員の負担を少なくすることは、自主研修会実施（あるいは継続）の条件であろう。一方、個々の教員が研修会で解決したい問題はそれぞれ異なる。しかし、同僚あるいは同地域を探せば、同類の課題をもつ教員も少なくない。そうした同類の課題を抱える教員に呼びかけ、経費を分担することで、校外の専門・技量・経験豊かな人たちや、地元の大学の支援を活用し、企画・立案者及び参加者のニーズを取り上げた自主研修会を企画・実施することができるであろう。そこで、次に示す手順で、表現運動の指導法を研究する自主研修会づくりを試みた。

① 活用する支援（校外の専門・技量・経験豊かな人たちや大学）の交渉。

企画・立案者の課題は、表現運動領域の主内容「表現」の授業づくり（低・中・高学年の発達段階に応じて、子どもたちが恥ずかしながら楽しく自然に体が動くような題材による授業づくり）である。そこで、地域の宮崎大学の舞踊学研究室に、自主研修に活用する支援（教材及び講師）の提供・派遣を交渉・依頼した。

② 表現運動の授業づくりの課題についてのアンケートの実施。

対象は、同僚および同地域の教員。企画・立案者の勤務校（日南市立東郷小学校）の教員および近隣の小学校の教員を対象に、表現運動の授業づくりの課題や問題点についてアンケート調査を実施した。その結果、企画・立案者と同類の課題を抱えた教員が多数いることが明らかになった。

③ 実施要項（日時、会場、内容、講師、会費等）の作成。

日時については、教員が参加しやすい夏季休業中（8月21日）の午後に設定した。会場については、当初大学での実施を考えていたが、より気軽に参加でき、手続きも容易な企画・立案者の勤務校の体育館とした。内容は、「初歩的な段階の指導者のための表現の授業づくり」とし、具体的な内容の検討を大学教員に依頼し、当日の講師は、アーティストの児玉

孝文と野邊壮平に依頼した。会費は、参加者を5～6名と予想し、1人2,000円とし、講師料及び講師旅費と資料制作費に充てることにした。

④ 参加の呼びかけ

対象は、原則として発案者と同類の課題をもつ教員。事前アンケートを元に企画・立案者と同類の課題を抱えた教員を対象に参加者を募った。その結果、東郷小学校から4名、近隣の吾田東小学校から2名の計6名が参加することになった。

⑤ 配布資料、事後アンケートの作成。

当日配布する資料（レジメと使用曲CD）および自主研修会を終えての感想や意見を問う事後アンケートを作成した。

(2) 事前アンケート調査及び結果

研修プログラムを作成するに当たり、より研修者のニーズに応えられるプログラムにするために事前アンケートを行い、以下のような回答を得た。

① 表現運動・ダンスの学習経験・指導経験、研修の経験

- 表現運動・ダンスの学習経験はそれほど多くない。
- 運動会の練習以外で表現運動の授業は毎年行われていない。
- これまでに、3名が表現運動の研修を行ったことがあり、2名は研修を行ったことがない。

② 抱えている課題・問題点 ※（ ）は人数

- 子どもたちが恥ずかしがらずに楽しく意欲的に動くための方法が知りたい。(2)
- 声かけの仕方や評価の仕方等、実際の授業場面における指導方法について学びたい。(2)
- 授業で簡単にすぐ使える題材が知りたい。(1)
- 自分たちで創り上げる喜びが感じられる題材が知りたい。(1)
- 曲選びについて知りたい。(1)
- 表現運動が苦手な子どもへの指導法について知りたい。(1)
- 時数の確保について知りたい。(1)

(3) 研修プログラムの検討と決定

支援者に事前アンケートの結果を示し、より参加者のニーズに応じた研修になるようなプログラム作成を依頼し、ミーティングを含む以下のような学習内容（課題）で構成した。

<プログラム>

- I オリエンテーションⅠ（表現運動の学習について）
 - II ウォーミングアップ（新聞紙を使って）
 - III 低学年への指導（『崖の上のポニョ』、『運動会ごっこしよう』）
 - IV 中学年への指導（『暑い国から来たスパイ』）
- 休憩 ※ミーティング
- V オリエンテーションⅡ（新学習指導要領から）
 - VI 高学年への指導（『Beautiful Newspaper～美しき青きドナウ』）
 - VII 表現運動からの体力を高める運動（『M-KID'S エクササイズ』）
 - VIII まとめ ※ミーティング



研修風景（於：日南市立東郷小学校体育館 2008.8.21）

(4) 事後アンケート調査及び結果

参加者5名に成果と課題を探る事後アンケートを実施した。以下に結果（表2参照）と感想を示す。

<アンケート結果>

- ニーズに応じた内容だった。(5)
- 講師への質問はしやすかった。(4)
- 他の教科でも同様の自主研修会があれば参加したい。(5)
- 自主研修会を企画・立案したい。(4)
- 教師力の向上につながると思った。(5)
- 参加費2,000円は少し高い。(3)
- 資料があれば有料（1,000円程度）でも買いたい。(5)

<参加者の感想>

- 体を使って表現することは楽しかった。「表現は楽しい！」と感じた。
- 他の先生方もこのような機会が増えればよいと思った。
- 次回も参加したい。
- 研修内容を子どもたちに伝えていきたい。
- 指導者が表現運動の本質を知らないと子どもたちには伝わらないと感じた。
- 動きを事前に研究し、発達段階を考慮しながら指導したい。
- 低学年から指導者がねらいをしっかり持ち、心と体をほぐし、体を動かす楽しさを十分に味わわせたい。
- 「模倣」について考え、その重要性和奥深さを感じた。
- 最初に理論について話があり、よかった。
- もう少し人数が多いほうがやりやすかった。

<企画・立案者の感想>

「体を使って表現することが楽しい」「この楽しさを子どもたちに伝えたい」という感想からは、表現運動では、子どもだけでなく教員もまた、体験した楽しさが授業（づくり）に対する関心・意欲につながる事が分かった。また、実技だけでなく、表現運動についての理論的な話を取り入れたこともよかったようである。子どもたちの多様な動きを引き出す声かけの仕方や評価方法、授業の組み立て方等、実際の授業にすぐ生かせるものであったからであろう。

さらに、新学習指導要領や体力の向上等、社会の要請にも答えられるものであったこともよかった。



ミーティング風景（於：日南市立東郷小学校体育館 2008.8.21）

表2 事後アンケート集計表

1 少人数での自主的での研修会の経験

ある	ない
2	3

2 ニーズに応じた内容だったか

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
4	1	0	0

3 講師への質問等は行いやすかったか

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
2	2	1	0

※質問の時間を教えてほしい

4 他の教科でも同様の研修会があれば参加するか

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
2	3	0	0

5 同様の研修会を企画したいか

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
0	4	1	0

6 教師の主体的な研修会の企画や参加は、教師力向上につながると思うか

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
5	0	0	0

7 参加費2,000円について

高い	少し高い	適当	少し高い	安い
1	2	2	0	0

※半日ならよい

8 資料（授業ですぐ活用できるもの）が、別に1,000円かかるとしたら買うか

買う	買わない
5	0

9 感想

- ・体を使って表現することが楽しかった。
- ・他の先生方もこのような機会が増えればよいと思った。
- ・次回も参加したい。
- ・研修内容を子どもたちに伝えていきたい。
- ・指導者が表現運動の本質を知らないと子どもたちには伝わらないと感じた。
- ・動きを事前に研究し、発達段階を考慮しながら指導したい。
- ・「○○こっこ」等を自然に自分の子どもが目を輝かせてやっている。低学年から指導者がねらいをしっかり持ち、心と体をほぐし、体を動かす楽しさを十分に味わわせたい。
- ・もう少し人数が多いほうがやりやすかった。
- ・「表現は楽しい！」と感じた。
- ・「模倣」について考え、その重要性和奥深さを感じた。
- ・最初に理論について話があり、よかった。
- ・ペアでのセッションは、会話をしているようで楽しかった。

5 成果と課題

松本のおさそい文に「第1回の集まりが、お互いに有意義であれば、今後継続的に一緒に勉強していきましょう」（前掲）とあるように、「他の教科でもこうした自主研修会があれば参加したい」や「次回も参加したい」といったアンケートの回答や参加者の感想は、開発した自主研修プログラムが有意義であったからこそその「継続」の希望や期待であり、同じくアンケートの回答の「自分も自主研修会を企画・立案してみたい」と併せて、開発した自主研修プログラム（の実践）の有効性をよく示していると思われる。しかし、「よい機会ではあるものの、一期一会の講習会だけではよい指導者は育成できない」^(注6)として2泊3日の合宿研修の「清里研究会」が生まれたことから知るように、わずか2時間の自主研修では、参加した教員が、提案した表現運動の教材から、自分のもっている児童の特性とかみあわせて課題化できるような力をみかくことは難しい。そうでなくても、「創作活動では“自ら創る”という独創性を尊ぶ学習の性質上、指導は、あらかじめ予測されることがらと同時に、機に応じてなされるべきことも多く、指導の働きは一層複雑かつ重要になる。」（前掲）からである。従って、開発したプログラムの指導法研究の成果については、自主研修会を重ねてはじめて明らかになると考えている。

一方、目を転じて、今回の実践研究を通して最も教師力を向上させた教員は誰かと考えると、それは共同研究者の今村ということになる。今村は、自身と同類の解決すべき課題をもつ同僚や同地区の教員に呼びかけて、これまでにない形の自主研修を企画・立案しただけでなく、参加した教員に、表現運動（の指導）のおもしろさや、自主研修の必要性を気づかせるような自主研修会をつくることができた。本研究に参加し、今村は、“子どもや学校や地域の可能性の限界を、さらに新しく切り拓くことができるような指導者としての力”を確実にみがいたと言えるであろう。

以上のことより、教員が主体的に行う自主研修は、参加した教員の教師力を向上させる有効な研修であると同時に、教員のための自主研修を企画・立案・実施した教員の、変動の時代を切り拓くために必要な創造的な教師力を確実に向上させる有効なプログラムであった。さらに、有効性を実証した自主研修会のモデルを提出できたことも本研究の成果である。

終わりに、今後の課題について述べる。事後アンケートでは、参加費の金額について、1名が「高い」、2名が「少し高い」と答えていた。今村は、一般の教員は、有料の研修会や参加者が経費を負担する研修会に慣れていないための評価であるとしたが、今後は、自分のニーズに合わせた研修会をオーダー・メイドしたり、知りたいことをその場ですぐに質問することができるような少人数の自主研修会は、受益者負担が当たり前になるような、あるいは教員の自分に投資することを当然と考えられるような意識改革が必要となろう。同じく、今回のような資料（現場ですぐに活用できる）であれば、別途料金を払ってでも購入したいと全員が回答していたが、CDのような目に見えて手元に残るものに対しての料金の支払いには抵抗感が少ないようである。まずは、前述の意識改革と併せて、専門性のような目に見えないものや消えてしまう行為に対する金銭の支払いに対しての抵抗感を払拭することも、子どもと共に「新しい時代にふさわしい学校づくり」^(注7)の主演として教育改革に臨む教員の研修課題である。

注・参考文献

- 1 松本千代栄撰集，舞踊文化と教育研究の会編，明治図書，2008
- 2 松本千代栄，まえがきーひと流れの動きに生命ありきとー，松本千代栄撰集，前掲，p1
- 3 一期一会の研修会だけではよい指導者は育成できないとして，有志をつのって指導法研究会「清里研究会」（1962～70）を興し，1979年には，学習指導法研究の「提案グループ」（～86）を自身が理事長に就任した日本女子体育連盟内に結成した。なお，高橋は，現在も続く「授業提案グループ」（1986年～）の前身であるこの「提案グループ」の初回からの合宿（於：国立婦人会館）を企画した。
- 4 今後の教員養成・免許制度の在り方について，中央教育審議会答申，文部科学省，2006.7
- 5 市川博，教師教育学Ⅲ，教師として生きる，学文社，2002
- 6 中村恭子，高野章子，あとがき，松本千代栄撰集，前掲，p429
- 7 新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について(中間報告)(抄)，中央教育審議会答申，文部科学省，2002.11

